

土壌を活用した電力によるスタンドアロン照明

超小集電を自立電源として保有する環境照明は、停電時でも消えない灯りを提供し、防災インフラとして地域住民の安心を支えます。日照に依存せず安定稼働できるため、これまで設置困難だった場所にも安全な灯りを届けることが可能となります。設置場所や形状の自由度が広がることで、街並みや自然環境に溶け込み、景観価値を高めながら照明インフラを整備することが可能です。電力に地域の土壌を活用することで、地産地消のクリーンな自然エネルギーとしての運用が見込まれます。



11 - 13 system

13時間充電し11時間点灯する、季節を問わず運用可能なシステムで構成されます。最小の構成は1セルによる充電サイクルです。

設置場所、明るさ、点灯時間など、求める性能により電力セルや蓄電容量を設定し、仕様に応じた製品デザインに対応します。



プロトタイプによる実働試験

茨城県のコンクリート製品メーカーとの協働開発により、擁壁内臓照明を試作し、試験を開始した。試作した1セルモデルの照明システムは、充電サイクルの運用性やメンテナンス性などの検証を製品化に向けて進めている。

